



筑波大学
University of Tsukuba

Tsukuba Communications

vol.5

2 インタビュー 筑波大学の未来について語る!

6 対談 地方と大学の関わり
蒲島郁夫氏 熊本県知事 × 鈴木久敏 理事・副学長

12 特集 グローバル30

16 学内組織紹介 下田臨海実験センター

18 附属学校紹介 附属駒場中・高等学校

20 TSUKUBA SPORTS 蹴球部

22 TSUKUBA ART & CULTURE 応援部WINS

24 TOPICS イベント／交流／受賞

28 羽ばたくOB&OG 栗飯原理咲氏

30 リレーエッセイ

32 茗溪会Letter

33 紫峰会Letter

34 新聞記事掲載一覧

35 イベントカレンダー

筑波大学の 未来について語る！

本学の第2期中期目標・計画素案が平成21年6月末に文部科学省に提出されました。そこで、今回、山田信博学長に第2期中期目標期間の方向性や具体的施策について伺いました。インタビューは、中期目標・計画に関する事務の責任者である、木村守企画室長です。



木村 学長は、本年4月1日の就任後、会議や部局等との対話を繰り返しながら、中期目標・計画に関する検討を進めてられました。中期目標・計画の素案は、6月30日に文科省に提出しましたが、今後、数値目標や達成時期等の若干の修正が想定される流動的な時期でもあります。現在、学内においては、素案の大幅な修正はないとの前提で、年次別実行計画の策定が進められているところです。このようなことから、学長へ第二期の中期目標・計画の基本方針及び項目ごとの重点事項を再確認することによって、年次別実行計画の策定作業の円滑化と学内構成員の意識の共有化に役立つのではないかとこの観点からインタビューをさせていただきます。

まず、中期目標・計画の策定にあたり、どのような点を重視して検討を進められたのかお聞かせください。

学長 まず、文科省の要請である、大学の個性化・機能分化をより促進すること、さらに全学的な視点から計画を作るという視点から、第一期の中期目標・計画と比べると、項目数も4分の1以下になる形で整理して、大学にとって重要な機能、課題を優先的に取り上げました。

本学は、個性化・機能分化という中で、世界的な研究教育拠点として努力し、発展していかなければいけないと思っています。また、開かれた大学として、グローバル化を進める中で、世界的な難しい問題に勇敢に立ち向かうタフな人材を育てていくことが大事だと思っています。そのためのいろいろな方策をみなさんと共に考えて、世界的な研究教育拠点となるような企画・戦略を共に努力していかなければなりません。

教育については、さらに学生の視点に立って充実させていくことを計画の中に掲げ、本部はもちろん、各部局でも大いに努力をしていくということです。特に、第一期に学群レベルで作った「筑波スタンダード」を、第二期でさらに充実させていくと同時に、教養教育を一層充実させていく方向で考えています。大学院教育に関しても、「筑波スタンダード大学院版」を作成することにより、学生たちには教育内容が分かりやすくなるだろうし、本学の学群、あるいは大学院で教育を受けることによって、どのような力をつけることができるかを見えるようにしていきたいと思っています。その中で、学士レベルから修士、博士課程への教育の流れが学生にも社会にも分かりやすいような課程、あるいはカリキュラム編成をこれから工夫していかなければならないと思っています。それによって、学士、修士、博士それぞれの課程でより実質的な教育成果が期待できるのではないかと考えています。

木村 研究に関しては様々な分野がありますが、年次別実行計画を立てていく上で、どのような点を重視していきたいとお考えですか。

学長 人文科学から自然科学、体育、芸術も含めて、各々の分野が質を高めて、わが国を代表するような研究成果を出せる環境を作っていくことが我々の使命だと思っています。本学は、昔から強い分野がたくさんありますので、強いところはますます質を高めていただきながら、もっと伸ばすべき分野にも一層力を入れなければなりません。資金面からの判断という面では、本学の生命科学分野のウエートが大きくなっている中で、生命科学分野がさらに伸びるチャンスだということも考えていく必要があると思います。

木村 第二期では、国際化に対する取り組みを明確化することが必要だと言われていますが、その点はいかがでしょう。

学長 研究、教育に加えて、知の拠点である大学の取り組みとしては、国際化というのは重要な課題です。で、教員、職員だけではなく、学生も共に国際化に対応する努力をしていかなければならないと思っています。特に、海外の学生を受け入れたり、本学の学生たちを海外へ派遣するなど。これは教職員も同様だと思いますが、いろいろなチャンスで海外と交流をしていくことで国際性を高め、お互いの理解を深めて、その中で社会の抱える諸問題を解決する人材育成に繋がると期待しています。

研究、教育、人材の育成、国際化に続いてもうひとつ、忘れてはいけないのは社会貢献ですね。社会貢献についても今回の計画の中では入れさせていただいて、大学が中心となって、地域の活性化であるとか、産業界との連携によって新しいイノベーションの創生に繋がるようなビジョンを展開すること、地域の人たちと一緒に





なって社会の文化基盤を作るということを具体的に進めていきたいと思っています。

木村 国際化に関しては、グローバル30の実行計画が中期計画の年次別実行計画に反映されてくると思いますが、国際化推進委員会での検討状況はいかがでしょうか。

学長 全学的な協力を得て、グローバル30というプログラムの準備を行ってきたわけですが、最初の13校のひとつに選ばれたということは皆さんの努力のたまものであり、大変感謝しています。国際化に関しては、これからいろいろな意味でトライアンドエラーがあると思いますが、この先、日本の大学教育の中で、本学が良い見本を示すことが大事だと思います。

国際化推進委員会は動き始めたばかりですが、国際化というのは研究、教育、学生の入学、アメニティ、宿舍、施設などいたるところに関わってきますので、大学全体で取り組まなければならないことだと思っています。そういう意味で、全ての組織が知恵を出し合い、できるだけポジティブな気持ちで、より国際化した大学の形を模索していくということになるのかもしれないですね。来年度から新たな留学生を受け入れることになりますので、急がなければならないところは、早急に始めていきたいと思ひますし、いいスタートにしたいと

切に願っておりますので、皆さんからご要望を出していただきたいと思います。

木村 国際化の観点から、筑波研究学園都市との協力体制や、研究学園都市の中のハブとして筑波大学が担うべき役割について、学長の考えをお聞かせください。

学長 つくば市には、約7,000人の外国人研究者や留学生などがいますので、外国人の生活に十分に対応してきたという蓄積があるということになります。そういう環境の中に本学の留学生たちが加わっていくことになるわけですが、留学生たちの将来のキャリアパスを考えたときに、研究機関との連携や将来の勤務先を含めて、研究学園都市の持っているリソースを最大限活用できるような環境を整えていくことが、大学の国際化のために大変重要であると思ひます。

研究学園都市を見ると、どうしても科学技術に偏っているところがあるように思ひます。大学は、多くの学生がいて、人文系分野など、しっかりと強い財産を持っています。若い人たちを育てていく上で、その文化基盤となるのは、科学技術と共に人文的教養というものが大事だということを、身をもって示していかなければいけないと思ひます。大学全体で研究学園都市のために協力していくことは、世界的な研究教育拠点として発展していく上でも、また、この地域で生活する学生にとっても大変重要なことだと思ひます。

そのためには、約300ある研究機関の中で、国際的な知のネットワークのハブとしてのさらなる発展を目指して、本学が研究機関間の有機的連携に中心的な役割を果たすように、地域社会も含めた連携活動を一層強化しなければなりません。

木村 第二期では、組織の見直しも検討されていくと思いますが、学長が考える組織のあり方についてお聞かせください。



学長 組織基盤というものがしっかりしてなければ、社会に対して、大学の持っているものを効率よく表現し、研究、教育、社会貢献をしっかりと着実に進めていくことがなかなか難しいと思うのです。本学は、新構想大学として、他大学にないシステムの中で、例えば運営に関しては、本部機能や部局との連携というものを重視して進めてきました。各部局においても学際的な交流ができるような仕組みを作った大学です。創設時と比べますと、例えば大研究科や法人化による新しい運営システムなどがそこに加わってきている中で、組織が従来考えていたおりに効率的に動いているかどうかをもう一度見直すべき時期に来ているのではないかと思います。

社会は、人的資源や財政的資源、あるいは施設の資源というものが、もう右肩上がりではなく、安定期に入っています。組織が複雑化・高度化し、その資源を有効に使わなければいけない中で、限られた時間的資源を有効に使って、学生にとっては学ぶことや考えることに、教職員にとっては教育・研究等に集中できる環境を作っていく必要があるでしょう。大学には、教育、研究、教員の組織という3つの柱があるわけです。その3つを整理して、できるだけ資源を効率的に活用し、優先順位をはっきりさせることで、時間的なゆとりが生まれることを期待しています。

木村 学生生活支援については、学生からの多様なニーズに応える必要があると思いますが、第二期ではどのような施策を打ち出していきたいとお考えですか。

学長 大学の施設は、ある程度年次計画で更新されていますし、筑波大学のもっている自然というのは我々からみても学生からみても素晴らしいものがあるわけです。ところが、研究・教育とはダイレクトに結びつかない。学生生活にとって重要なところには、まだまだ時間が止まっている部分がたくさんあるだろうと思います。リソースが限られた中で難しいところもありますが、社会の進み方に合わせて対応していかなければいけないと感じていますので、担当の先生方と一緒に考えていきたいと思っています。

学生支援を充実させるため、毎年度1%ずつ基盤経費が減っていくという状況の中で、それを補うための基金が大事になると思います。そういう意味で筑波大学基金のようなものを教職員の皆さんや先輩、市民社会、産業界の協力を得ながら進めていきたいと思っています。

木村 学長は教職員や学生とのコミュニケーションを

重視されていますが、今回の中期目標・計画の検討の中で部局等と対話を行ったことによって、どのような収穫があったとお考えですか。また、今後も意見交換の機会は持たれるのでしょうか。

学長 教育研究現場の生の声を聞くことは大変重要だと思っています。今回の中期目標・計画に関する対話を通じて、先生方の意見や課題を素案の検討に生かすことができました。

組織の見直しに関しても、まず、執行部で大きな案を作成して、その上で各部局からの意見を聞かせていただきながら対話を重ねることが必要だと思っています。その際には、皆さんに分かりやすいQ&Aのようなものを作って一層理解を深めたいと考えています。

対話によって、お互いに気付かない部分をしばしば感じるようになりますし、実際に現場で教育研究を行っている先生方や職員の方たちの顔を見て、声の調子を聞くことで皆さんの様子がよく分かります。これからはいろいろな所に伺いたいと思いますし、教職員の皆さんに来ていただく機会も増やし、皆さんの声を運営に反映していきたいと思っています。

山田信博学長は
こんな人



身長：171cm
体重：68kg
血液型：AB型

趣味…オペラ、映画、ゴルフ

好きな食べ物…寿司、うなぎ

尊敬する人物…父親

座右の銘…緊張と弛緩





対談

地方と大学の関わり

蒲島 郁夫氏 熊本県知事 × 鈴木 久敏 理事・副学長

オチこぼれから大学教授へ

鈴木理事 遅ればせながら、知事就任おめでとうございます。本日は主に3つの事をお聞きしたいと思います。1つめは研究者と政治家、その両者の違いについて。2つめは地域と大学の関わりについて。3つめは現在の高等教育、学生への期待についてです。どうぞよろしくお願い致します。蒲島知事（以下、知事）は研究者から政治家へなりましたが、大変ユニークな経歴をお持ちですね。

蒲島知事 わたしの家族は戦後、満州から引き揚げ、小作をしていた祖母の家に転がり込みました。わたしは10人兄弟の7番目として生まれたのですが、日々食べるものにも事欠く貧しい生活でした。家計を助けるため、小学2年生から新聞配達をし、それから新聞を読む習慣が付きましたが、高校では勉強をせず落ちこぼれました。高校卒業後、夢の一つであった牧場経営を目指して、農業研修生として渡米しました。学科研修でネブラスカ大学で学んだ際、実際の農業に比べれば、なんと学問は楽なのだろうと思い、学問に目覚め、そしてネブラスカ大学の農学部を受験しました。わたしが通訳を務めていた先生のおかげもあり入学が認められ、そのとき一生懸命勉強して特待生になりました。ネブラスカ大学では繁殖生理学で豚の精子の保存方法を研究し、教授から大学に残って研究を続けなとかとまで言ってもらいました。大変うれしかったのですが、一生研究をするなら好きなものをやりたいと思い、政治学の勉強をする決心をしたのです。そしてハーバード大学大学院で政治学を勉強しました。政治学を学んだとはいえ、日本の教育を受けていなかったため、日本での就職が大変不安でしたが、このとき、筑波大学と名門私立大学からのオファーがありました。はじめは筑波大学を断り私立大学を選びましたが駄目になってしまい、筑波大学が再考してくれて採用されました。筑波大学には、本当に感謝しています。その後17年間、筑波大学で講師、助教授、教授を勤め、国際政治経済学研究科長時代に東京大学法学部に呼ばれました。そして2008年1月に熊本県知事選に立候補することになったのです。

鈴木理事 知事は農業研修で渡米されてから学問に目覚め、農学、農業経済、そして政治経済と分野が多岐にわたっています。そのきっかけはどういうところにあったのでしょうか。

蒲島知事 子どものころからわたしには3つの夢がありました。それは、小説家になること、牧場を開くこと、



そして政治家になることでした。農業研修生として渡米したのは牧場を開く夢のためでした。その後、政治家になる夢のため、政治学を学ぼうと、ハーバード大学へ進みました。筑波大学、東京大学と政治学を教えてきて、それを生かす道として政治家になったわけです。夢を追いかけてきたという意味で、わたしとしては一貫しているつもりです。

研究者が政治家になるということ

鈴木理事 政治学者として、筑波大学と東京大学で長年研究をされ、政治家になり1年数カ月経ちますが、研究者と政治家とではどう違いますか。

蒲島知事 とても違いますね。しかし、政治学者として培われたものは生かされています。知事に就任してからはハーバード大学で学んだ決断の重要性が役に立ちました。アメリカ大統領であっても最初の6カ月が大事で、このときに決断するのだと。これが川辺川ダム問題^{*}に利いてきました。ルソーの理論から導かれる、決断における精神の自由も重要でした。いろいろなグループが賛成、反対する中で、いかに精神の自由を保って合理的な判断を下すかが、政治家として重要です。そして、世界中の歴史的な危機を研究してきたことで、自分の置かれた状況を相対的に位置づけることができました。たとえば川辺川ダム問題は熊本県にとっても日本にとっても大きな問題ですが、ケネディがキューバ危機で直面した問題に比べれば相対的に小さいと思います。緊張感をある程度抑えることができました。このように政治学者としての面が生かされてはいますが、生き方は全く違います。研究者の場合は決定を下しませんから、愛されるんですね。しかし、政治家はその決断によっては多くの人を苦しめ、悲しませるという面があるため、憎まれるんです。その部分に両者の違いがあると思います。また、研究者は愛されることに加え、

自分の研究や業績のために仕事ができます。知事は研究者と比べ3倍は仕事をしている気がします。ですからその意味で筑波大学の先生には、大変良い職業に就いているのだということを言いたいですね。好きな研究ができる幸せを感じてほしいと思います。政治家の苦しみは、その立場になってみて初めて分かりました。

鈴木理事 県知事選では、勝利への手ごたえをどのように感じていましたか。

蒲島知事 当選できると思ったから手を挙げたわけです。他の候補者も当然、自分が当選できると思っていたでしょう。楽観性が無いと立候補はできませんね。実際の選挙戦では、有権者から本当に軽く扱われました。これまでわたしが講演や講義をした経験で

みんな話はきちんと聞くものだと思ってきたわけです。ところが選挙時には街角に立ってしゃべっても、パンフレットを配っても、無視ですよ。しかし、そんな中で勝利を確信したのは、1月末の世論調査結果が出たときです。有力候補者にダブルスコアで勝っていたので、勝利を確信しました。しかし、ある候補者や政党が圧倒的に優勢なときは投票先を変える有権者が必ずできます。これは政治学者としてのわたしが提唱しているバッファープレーヤーの理論ですが、今回ばかりはこの理論が当てはまらずに、みんなにバッファープレーヤーにならないでくれと呼びかけました。結果として5人の候補の中で圧倒的優勢との予想が激励票につながったのか、50%の票を獲得することができました。わた

しは知事選で、政治学の理論に基づいて特定政党からの推薦を受けませんでした。それでもわたしに立候補しないかと声を掛けてくれた政党は全力で応援してくれ、リベラル層もわたしを支持してくれました。また、生まれ故郷の山鹿市も、ものすごい勢いで応援してくれ、83%もの票をいただきました。

鈴木理事 知事は、政治学者で有名ですからネームバリューがあったのではないですか。

蒲島知事 それは違いますね。選挙では、東京大学の先生だからといって、みんなが尊敬し、注目してくれることはなかったですね。知名度はむしろ他の候補者の方があったでしょう。

鈴木理事 知事は研究者として主に国政選挙における有権者の投票行動の分析をされていたわけですが、国政の研究と実際に地方自治体の首長になることには同じ政治をやっているとは言っても距離があるように思いますが、いかがでしょうか。

蒲島知事 国政を知るのと知らないではすごく違うと思います。わたしは国政をずっと勉強してきましたし、たくさんの教え子が霞が関にいます。地方自治においては、川辺川ダム問題の決定のように地方分権的なことを行う際、県庁組織としては霞が関が怖いのです。しかし、霞が関での政治を知り、そこには教え子もいるので、わたしにはそういう怖さがありませんでした。実際に知事に



かばしま いくお
蒲島 郁夫氏 熊本県知事

1947年	熊本県生まれ
1965年	熊本県立鹿本高等学校卒業
"	稲田村農業協同組合勤務
1974年	ネブラスカ大学農学部卒業
1977年	" 大学院農業経済学専攻修士課程修了
1979年	ハーバード大学大学院政治経済・行政学専攻博士課程修了
1980年	筑波大学社会学系講師
1985年	" 助教授
1991年	" 教授
1996年	" 大学院国際政治経済学研究科長
1997年	東京大学大学院法学政治学研究科教授
2008年	熊本県知事

なってみると、統計的に同等のウエートで扱われてきた個々の有権者の意見が、少数派であってもその苦しみがものすごく深く、多数派の意見だけによらない判断が求められる事があります。研究者として世論調査をしましたが、それでは計ることのできない世論は、政治家でないと分からないところがあります。これを紙に記すのは難しいですね。決定を下した人にしか分からないです。

鈴木理事 知事はマニフェストを出され、就任6カ月後にはその進捗状況を点検し、ホームページにアップされています。非常に素早く行動されていると思うのですが、半年間でここまで進めるためには何か事前の準備があったのですか。

蒲島知事 普通の選挙ですと、当選後1年くらい様子を見ることが多いわけです。しかし、マニフェスト選挙では、当選した直後には自分のやりたいことが県職員の間に浸透しています。また、ハーバードで学んだ、決断の重要性も利いてきました。これにより川辺川ダム問題は半年後に決断を下すとして有識者会議を作り、就任直後にそのメンバーを事務局に示すことができました。このメンバー選びには筑波大学の人脈も生きています。1年目のマニフェストの進捗状況を発表しましたが、スピード感を持ち時間を区切るというのは重要ですね。

自己犠牲と職員を守る気概

鈴木理事 マニフェストの進捗状況を見ていると、業務改善や組織再編、時間外手当をいかに削減するかなど、まさにわたしが人事担当として苦労しているところと同じ話がたくさん出てきました。知事も苦労が多いことと思いますが、何か良い手はありましたか。

蒲島知事 自己犠牲です。学問的には、有権者も政治家も自分の利益を最大化することによって民主主義がうまくいくのだと、市場の理論で政治を見るところがありますが、自己犠牲なくして政治家はうまくいかないと思います。わたしの場合、給料カットを行いました。

鈴木理事 124万円の給料を24万円にすると、情報公開していますね。

蒲島知事 手取りでは14万円です。これは、選挙にあまりお金をかけなかったからできたという事もあります。有権者や職員は、これで本当に県が財政難で苦しんでいるのを見るわけです。職員の給料を3%~7%カットし、また補助金をカットしたため、文句がどんどん出てきますが、知事が14万円で生活しているのだと思うと過大な要求ではないと実感してもらえる。一方で、不適正経理があった際には職員に対して自己申告をすれば愛情を持って処分を下すと言いました。県民からは甘すぎると批判がありましたが、それでも職員を守りました。自己犠牲と職員を守るという気概を、どんな世論が



すずき ひさとし
鈴木 久敏 理事・副学長（総務・人事）

1988年 筑波大学社会工学系教授
2001年 // ビジネス科学研究科長
2002年 // 企画調査室長
2006年 // 大学研究センター長
2009年 理事・副学長



蒲島知事自ら熊本県産品のセールスを行う(写真提供・熊本県)



観光キャンペーンで乗馬(写真提供・熊本県)

あってもかたくなに守ったことは結果的には良かったと思っています。

地域と大学の役割

鈴木理事 地域における大学の役割とは何なのか、県の立場からお聞かせいただければと思います。

蒲島知事 「経済上昇くまもと」をマニフェストで言っていますが、やはり産学官の連携が重要です。そして医学部の役割も重要です。地域の保健医療に対して医学部は圧倒的な力を持っていますから、大学なくして保健医療は考えられません。筑波大学は全国的な大学ですから、地域との連携をどう結ぶかという事についてはかえって苦しいところがあるのではないのでしょうか。

鈴木理事 知事は教育界で出身ということもあって、「くまもと夢への架け橋教育プラン」というのを出され、幼児期から小・中・高校、そして生涯に渡る教育に関する広範なプランを出されていますね。

蒲島知事 知事になる前は、もっと教育に対して知事の力が発揮できると思っていました。ところが、日本の地方自治では教育の分野が行政委員会として独立しており文部科学省の指導の下にあるわけです。そうする

と全国一律になりがちで、それが本当に正しいのかと思います。そのためわたし自身の判断で、教育長にエースを投入しました。また、夢のある教育を目指してわたし自身が小・中・高校へ出前講座に出向いています。熊本県が交流の架け橋として協定している東京大学に、熊本県産の木材でウッドデッキを作って、球磨工業高校の生徒が製作した椅子とテーブルを設置しました。東京大学と熊本県は遠いですから、そうやって交流を行ったわけです。自分自身、夢が重要でしたから、子どもたちにも夢を持ってもらいたいので、そういう教育をやりたいと思っています。生涯学習という面ではわたしは大学に入ったのが24歳の時ですから、いつでも勉強はできると思います。今は大学全入時代ですから、ものすごく良い機会です。また、熊本県庁に入った職員を東大の大学院に送る仕組みを作りました。県庁に入って東大へ行こうというモチベーションを持ってもらおうと思っています。教育というものは社会格差の拡大ではなく縮小に貢献すべきであるというのがわたしの教育目標です。今、社会は二分化していますが、教育の場こそ、そうであってはいけないと思います。たとえば、生活保護家庭は経済的に厳しいため、大学進学をあきらめる人もいるんですね。それはまずいということで、熊本県立大学に生活保護家庭の子どもの特別推薦枠の創設をお願いし、実現しました。



<期間限定の熊本県広報WEBサイト><http://www.daisuki-kumamoto.com/> (写真提供・熊本県)

夢に向かって一步踏み出すことが大切

鈴木理事 最後に大学・高等教育への期待ですが、今の大学生に対して、多彩なご経歴をお持ちの知事から何かコメントをいただけますか。

蒲島知事 1つは、人生は長いということです。ですから早いうちに自分の人生を決めてしまわないこと。2つめは、チャレンジはいつでもできるということ。わたしは18歳で落ちこぼれ、努力して28歳の時にハーバード大の大学院に進み、33歳で筑波大学、51歳で東京大学法学部に呼んでももらえました。そして61歳で県知事になりました。人間の可能性は無限大であり、逆境にあればあるほど将来の喜びは大きいのです。そう楽観的に考えてほしいと思います。3つめは夢を持つことの重要性和、それに向けて一步踏み出すことです。夢に向かって120%の努力をすれば、必ず夢に到達できると信じていますから。

鈴木理事 夢を実現してこられた知事の説得力あるコメント、ありがとうございます。後輩の政治学者にもコメントをいただけますか。

蒲島知事 わたし自身は数学が一番弱かったと思っています。数学的な基礎は全ての分野に必要です。数学を一生懸命勉強して、そして歴史を勉強すれば、政治学者として伸びる可能性は大きいと思います。ただこれには早く気づかないといけなないので、学部1年生の時から数学を勉強することです。

筑波大学が世界一の大学になるには

鈴木理事 最後に筑波大学へのコメントをお願いします。

蒲島知事 筑波大学が世界でも魅力的な大学になるためには、つくば市の中における立ち位置が必要だと思います。つくば市には50近くの研究所があり、それらがカリフォルニア大学のように筑波大学の元に大同団結すべきだと思います。これは両者にとってプラスだと思います。筑波大学は教育だけでなく研究にもプラスになりますし、研究所では学位授与権が重要でしょうから。100年後の筑波大学という大きな目標に向かうとすれば、筑波大学の大きな傘の下で筑波研究学園都市の研究所が一致団結して発展することが最高だし、そうすることが世界一の大学への道だと思います。

鈴木理事 夢のあるご提言ありがとうございます。

蒲島知事 筑波大学と研究所が一つになれば産業界から巨大な資金が投入されるという可能性が筑波大学にはあると思います。

鈴木理事 形の上ではいろいろな動きがあるのですが、なかなか一つにまとまって大きな流れになっていないというのが現状です。

蒲島知事 とすると、あとは留学生でしょうか。

鈴木理事 筑波大学もグローバル30として国際化拠点大学に選ばれ、現在1500人の留学生を4500人まで増やす構想があります。実現すれば日本で一番多くの留学生を受け入れる大学になると思います。

蒲島知事 留学生は質の高さも重要ですが、アウトサイダーにも目を向けてもらいたいと思います。リターンレートは低いかもしれませんが、正規の留学生にはないバイタリティーがありますよ。それと良い先生を集める事です。私は新設の大学の設置審査をやっていますが、あまりにも大学院教育を無視した人事が進められています。ちゃんとPh.Dを取得した人材を採用し、そういう人たちがきちんと教えられるシステムを作らなければいけないと思います。

鈴木理事 人事担当として、そういう仕組みを作ることがわたしの役割だと思っております。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

川辺川ダム問題

川辺川(かわべがわ)ダムは熊本県球磨郡相良村に計画されているダムで、地元での賛否が大きく分かれ、計画策定から43年を経た現時点に至るまでいまだ本体工事の着手に至っておらず、長期化したダム事業の代表格として知られている。



グローバル

国際化拠点整備事業

グローバル30とは

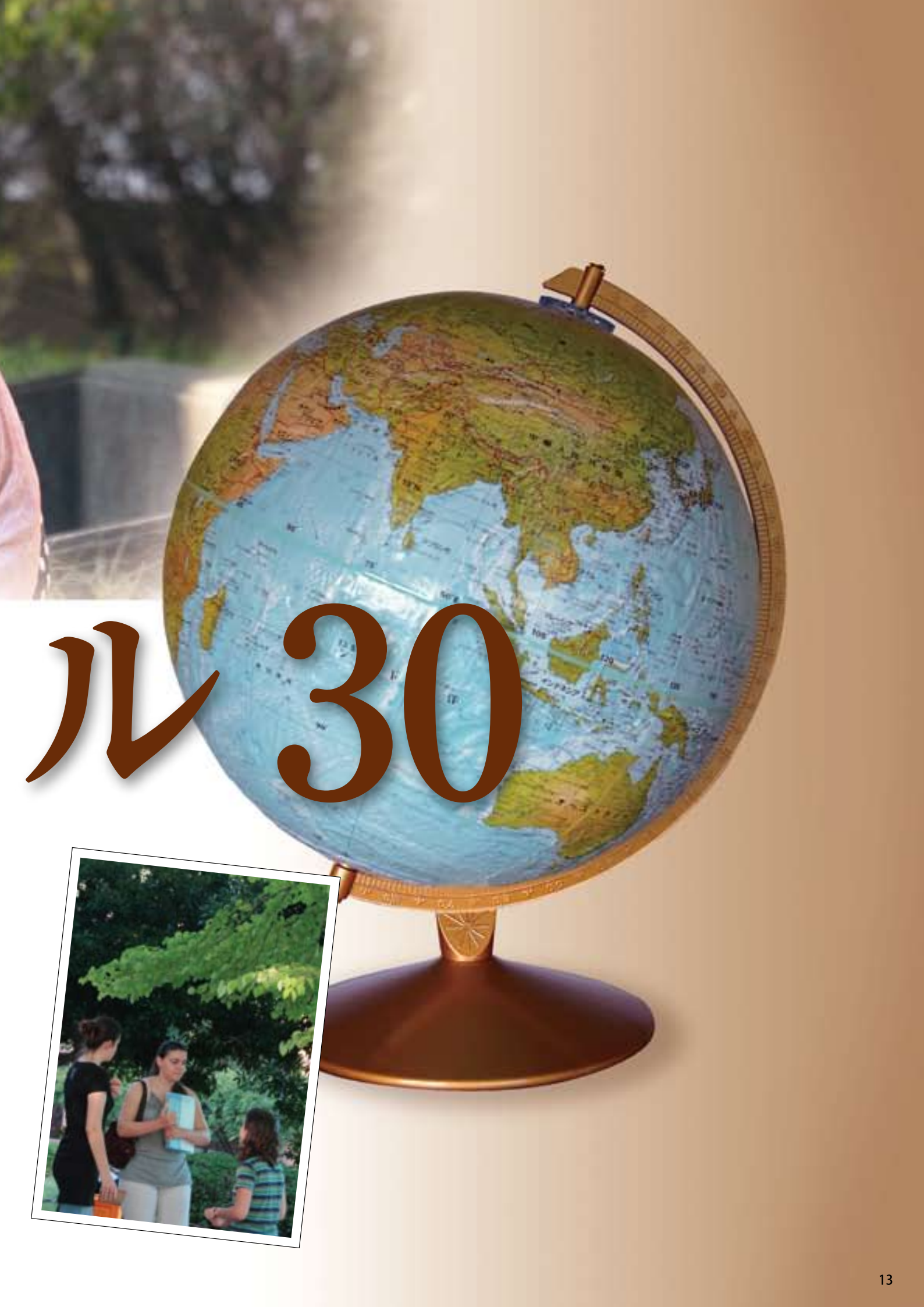
急速なグローバル化や世界の有力大学間の競争が激化する中、我が国の大学が、以下の取り組みを行うことを、我が国政府が5年間にわたって支援するプログラムです。

- ・英語による授業のみで学位を取得できるコースの設置（外国人教員の採用を含む）
- ・留学生受け入れのための環境整備（英語教材整備、職員の語学能力向上、他）
- ・国際化のモデルとなりうる拠点大学を選定し、いっそうの国際化を支援
- ・海外における留学生受け入れのための海外大学共同利用事務所の整備

このプログラムで拠点大学に選定された大学は、留学生等に一層魅力的な高水準の教育等を提供するとともに、優れた留学生の獲得や戦略的な国際連携の促進により、国際的に活躍できる高度な人材の養成を目指します。

このような取り組みを支援するために、初年度に当たる今年度は本学を含む13大学（国立7、私立6）が採択されました（国立大学は15の大学が応募）。

また、本学の北アフリカ・地中海連携センターが8カ所の海外大学共同利用事務所の一つとして指定されました。



ル 30



本学の国際化の理念とグローバル30

筑波大学は、建学の理念において「開かれた大学」を掲げて、国内外の教育・研究機関との交流を深めつつ人材の育成に努めて来ました。21世紀においても、本学が果たすべき役割として、①高い研究レベルに裏打ちされた「知の蓄積」、②国際的リーダーとなる人材の育成・輩出、③地球規模課題に対する



解決策の提示の3つの大きな役割があると考えています。本事業では、これら3つの役割を果たすために、北アフリカ・中東地域や中央アジアに開設した海外拠点の豊富な活動実績を生かした「ユニークな国際ネットワークに基づく重点的学術交流」の拡充と、「国際性が日常化した大学環境の実現」を図ることで、トータル的に「知の世界拠点として世界と共生する筑波大学」を実現することを目指します。言い換えれば、本事業の実施は、本学がその建学の理念に基づき、名実ともに「開かれた大学」として、建学の理念を実践することでもあります。

具体的には、知の世界拠点として「世界との共生」を念頭に、本学が築いてきた多彩な地域との国際ネットワークを十分に活用し、ユーラシア大陸を東アジアから中央アジアと欧州へ、そして北アフリカ・中東地域を結ぶ「知の環」の構築を目指します。そして、本事業の実施により、各地域での留学生の渡日前入試を拡充すると共に、これら地域の教育・研究機関との学生交流・研究者交流を拡大・深化させて、本学が掲げる「高い研究レベルに裏打ちされた知の蓄積」の一層の推進を目指します。

また、留学生や日本人学生への教育・学生支援、外国人教員の増員及び多言語対応のできる教職員の採用・育成を通じて、「国際性の日常化」に向けた大学環境の整備を一層進めつつ、国際インターンシップや就職支援を拡充して、「国際的リーダーとなる人材の輩出」の実現にも努めます。

これらの目的の達成と、それに向けた努力により、本学は「地球規模課題への解決策の提示」が一層可能になると共に、結果として大学の「国際競争力」をさらに高めることになると思います。



英語による授業のみで学位が取得できるコースの計画 (本事業により設置する)

	英語コースの名称	設置する学群、学類、研究科専攻名	人材養成目的	開設(予定)年度
学部	生命環境学際コース	生命環境学群 (生物学類、生物資源学類、地球学類)	生命環境科学の基礎力から、環境・エネルギー・食料問題解決に貢献する人材の育成	22
	社会国際学教育プログラム	社会・国際学群 (社会学類、国際総合学類)	社会科学分野を中心に、グローバル社会の要請に対応できる国際人の養成	22
	国際医療科学人養成プログラム	医学群 (医療科学類)	国際的感覚を身につけた医療科学分野の人材養成	23
大学院	国際共同農業研究エキスパート養成プログラム	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻	食/環境/生物資源利用分野で専門性と学際性を持ち国際的に活躍できる人材の育成	22
	国際生命産業振興のための実務者養成プログラム	生命環境科学研究科 生命産業科学専攻	生命産業及び科学的な政策、行政及び産業基盤に関わる人材の養成	22
	環境ディプロマティックリーダー育成プログラム	生命環境科学研究科 環境科学専攻、持続環境学専攻	高度な科学技術と政策立案、国際交渉能力等により、環境問題を解決するリーダー養成	22 (科学振興調整費による開設)
	バイオディプロマシーコース	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻	バイオテクノロジーと生物遺伝資源に関わる国際法・国内法履行上の実務者の養成	21
	国際環境連携プログラム	生命環境科学研究科 環境科学専攻、持続環境学専攻	環境コミュニケーター・マネジャーとしてリーダーシップを発揮できる人材の育成	20
	国際連携による持続的農業開発エキスパート養成プログラム	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻	専門性と国際性を兼ね備えアジア全域で食糧/環境のリーダーとして活躍できる人材の育成	19
	中央アジア国際関係・公共政策プログラム	人文社会科学研究科 国際地域研究専攻	中央アジア諸国における外交、行政分野の人材養成	22



本学の取り組み

筑波大学は、世界最先端の研究機関から構成される「筑波研究学園都市」の中核機関という特色を生かしつつ、「世界との共生の場」を念頭に、21世紀における教育・研究の世界的拠点にふさわしい環境を整備しつつ、「国際性の日常化」により世界の人々と協働できる人材育成を目指します。達成目標は、平成32年時で留学生4,500人、外国人教員160人、海外派遣日本人学生年間1,000人とし、英語で学位の取れる新規コースを5年以内に学部・大学院合わせて9つ以上開設します。これにより学生の4人に1人が、また教員の10人に1人が外国人という、まさに「国際性の日常化」の状態が実現されます。

本事業遂行に際しては、下記の4つに力点を置きます。

1

学際的な英語学位プログラム充実と日本語・日本文化の習得機会の提供

留学生にも日本人学生にも有益な英語で学位の取れるプログラムを、大学院・学部双方で提供します。また、本学が豊富な実績を持つ日本語・日本文化研究の成果を生かし、留学生の日本語能力の向上と日本理解の深化にも努めます。

2

全学の教育・支援システムの多言語対応化

外国人教員の増員のほか、日本人教職員についても外国語能力の高い人材の採用を進め、さらに、語学研修や海外派遣等により学内の意識改革を進めつつ、多言語対応化を図ります。

3

筑波研究学園都市に根ざした国際化

「筑波研究学園都市」としての「つくば」の地の利を生かし、市内の主要な先端研究所との「連携大学院制度」の拡充のほか、各研究所の外国人研究者を講師として専門性の高い英語での講義の実施を予定します。

4

国際的ネットワークの強化

平成21年4月現在、49カ国、172の大学・機関との連携協定を締結済みで、また、我が国の国際戦略にとってフロンティアである北アフリカ（チュニジア）と中央アジア（ウズベキスタン）に海外拠点を設置して実績を上げています。今後は海外大学共同利用事務所として採択された北アフリカ・地中海連携センターの拠点を中心に、そのほかの海外拠点の機能もさらに強化し、ベトナム、中国、ドイツなどの新たな海外拠点を結んで学生交流・研究者交流を深めます。



●国際化を推進する海外拠点

- 海外拠点を充実し、グローバルな教育研究活動を推進
- ・北アフリカ・地中海連携センター（チュニジア）
 - ・中央アジア国際連携センター（ウズベキスタン）
 - ・ホーチミン事務所（ベトナム）・北京事務所（中国）・ボン事務所（ドイツ）

英語による授業のみで学位が取得できるコースの概要 ※ピンクは新設

	英語コースの名称	設置する学群、学類、研究科専攻名	人材養成目的	開設(予定)年度
大学院	中央アジア教育文化政策スタッフ育成プログラム	人文社会科学研究科 国際地域研究専攻	中央アジア諸国出身の文化政策担当者養成	20
	中央アジア日本研究教育スタッフの再教育プログラム	人文社会科学研究科 国際地域研究専攻	中央アジア諸国出身の日本研究者養成	19
	国際関係論短期特別プログラム	人文社会科学研究科 国際地域研究専攻	アジア、東南アジア、中央アジアの若手政府職員の育成	14
	経済・公共政策マネジメントプログラム	人文社会科学研究科 経済学専攻、国際公共政策専攻	開発途上国の若手リーダー人材育成	7
	マスター・オブ・パブリックヘルスプログラム	人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻	医師や行政官などを対象とした公衆衛生学の専門家育成	22
	デュアル・マスターディグリープログラム	人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻	国際的感覚を身につけた医療人育成	21
	インターナショナル・リサーチ・コース	人間総合科学研究科 生命システム医学専攻	国際的に活躍できるアカデミックポジションを指向する研究者の育成	22
	物質・材料工学コース	数理物質科学研究科 化学専攻、物質創成先端科学専攻、電子・物理工学専攻、物性・分子工学専攻	物質工学、材料工学の国際的な人材を育成	21
	計算科学デュアル・ディグリー・プログラム	システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻	計算科学と計算機科学の双方の能力を持つ学際計算科学の人材の養成	23
	国際経営プロフェSSIONAL専攻	ビジネス科学研究科 国際経営プロフェSSIONAL専攻	統合的なマネジメント技能をもつ経営プロフェSSIONALの育成	17

下田臨海実験センター

東京駅から特急踊り子号で約3時間、伊豆急下田駅から徒歩25分程の所に下田臨海実験センターがあります。伊豆半島の先端、青い海と緑の山に囲まれ、まさに自然の宝庫といったところです。

同センターの歴史をたどると、黒船来航以来、文明開化の先端を担ったこの地に、1932年、下田町の好意により約18,200平方メートルの広大な敷地の寄付を受け、1933年、研究室、水族館・標本室、寄宿舍などの建物を要して、東京文理科大学附属臨海実験所としてスタートしました。その後、名称を東京教育大学理学部附属臨海実験所に改称、1976年に現在の名称、筑波大学下田臨海実験センターになりました。現在、稲葉一男センター長の下、教員6人、職員5人、研究員10人、非常勤職員7人、大学院生12人が、海洋生物学の研究・教育を行っています。

技術職員の品川秀夫さんは、本年度の第51次南極地域観測隊夏隊として、「南極昭和基地」で研究の補助を行う予定です。



■教育、研究を支える施設、設備

センターには、2つの研究実験棟、実習棟、水深3mの海水を常時供給している海洋生物飼育室、海洋観測棟などがあります。また、海洋の調査に欠かせない船舶を4隻所有。「つくば」(18t850馬力、定員30人)や「あかね」(0.5t9.9馬力、定員7人)が活躍しています。そのほかにも、潜水に必要なウェットスーツやボンベ、各種分析装置などの機器が揃います。

また、2棟の宿泊棟(最大収容85人)があり、センター常駐の大学院生や学内外の大学生、研究者が利用しています。事務を統括している河井陽子係長は、「今年で76年目を迎え、多少の古さがありますが、とても風光明媚な良いところです。是非、職員研修にも利用していただき、もっと下田の良いところを筑波の方にも見ていただきたいと思います」と話しています。

■臨海実習

本学の生物学類対象の臨海実習が1年に7回開かれ、海洋生物を用いた細胞生物学、系統分類学、発生生物学、生理学、生態学の観察や実験が行われます。また、自然科学類の生物学実習、体育専門学群のマリンスポーツ実習、生命環境科学研究科の大学院生による演習、研究も行われています。そのほか、全国の大学生や大学院生対象の公開臨海実習、高校生対象の公開講座、小・中学生対象

スで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



の自然観察会なども開催しています。

そんな中、現在、同センターで研究を続けている阪本真吾さん(生命環境科学研究科博士後期課程2年)は、高校生の時、同センターの公開講座の受講がきっかけで、本学生物学類へ入学した経歴の持ち主です。阪本さんは、「もともと生物学が好きだったこともあり、筑波大学へ入学しましたが、下田の素晴らしいフィールドが忘れられず、生態学を勉強するため下田に戻って来ました」と話しています。

■海産生物の研究

同センターは創設以降、生命科学の発展に寄与するため、海産生物を用いた基礎研究を行い、カブトガニの系統学的研究、群体ボヤの自己・非自己認識に関する研究、海産藻類に関する生理生態学的研究など顕著な成果を収めてきました。

現在では、▽分子細胞生物学分野(稲葉センター長、柴小菊助教)、▽発生学分野(齊藤康典准教授)、▽海洋生態学分野(青木優和講師)、▽発生遺伝子学分野(笹倉靖徳講師)、▽発生生物学分野(谷口俊介助教)の5つの分野の先端研究を行っており、生命の理解と海洋生物学の社会への還元を目指しています。

■共同利用・共同研究拠点として

本年度、国公私立大学の枠を超えて、大型の研究施設や大量の資料・データ等を全国の研究者が共同利用したり、共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム整備の1つとして、文部科学省が本年度73カ所の施設を認定しました。同センターは、東京大学海洋基礎生物学研究センターとともにネットワーク型の認定拠点として、「海洋生物学研究共同推進拠点(通称JAMBIO“ジャンビオ”)」を設立しました。

■今後の展望

今後の同センターの展望として、稲葉センター長は、「海洋生物分野に関する基礎研究がますます重要になっています。この状況の中、東京大学のセンターと連携し、研究推進できる環境が整備されることは、大変意義のあることです。本学センターが世界をリードする研究分野である、ホヤのゲノム解析やポストゲノム研究を契機に、世界最先端の海洋生物分野施設を目指し、筑波大学を代表する国際組織にしたいと思っています。また、本年度には、ヨーロッパやアメリカの海洋施設と、国内からは筑波大学と東京大学の同センターが連携の初の会議がイタリア(ナポリ)で開催され、国際的グローバルネットワークが形成される予定です。豊かな海洋環境にある本学センターを科学コミュニティーの中心的な場としてさらに発展させたいですね」と熱く語っています。

「6年間の自由空間」 筑波大学附属駒場中・高等学校



稲作のある中高一貫男子校

本校は、戦後間もない1947年に東京農業専門学校の附属として開校しました。その後、東京教育大学、さらに筑波大学の傘下に入り、愛称も「農教(ノウキョウ)」 「教駒(キョウコマ)」 「筑駒(ツクコマ)」と変化していきました。創立以来60年以上も、稲作実習のある国立大学附属唯一の男子校であり続けています。現在も、中1と高1は1年かけて、日本の文化である「苗床作り→田植え→草取り→稲刈り→はぎかけ→脱穀→餅つき」を行っています。



10年・20年先を考えたリーダーの養成

目先の大学進学を念頭においた受験教育を実施していると思われる方が多いようですが、それは残念ではありません。生徒たちには将来、若きリーダーとして直面する課題に果敢に立ち向かい、身につけた教養と専門的能力をフルに発揮し、その難題を解決する存在になってほしいと考えています。そのために、学業・学校行事・部活動を三本柱とし、「こころと体の全面発達」をめざした教育を推進してきました。

まず学業面では、大学受験に特化したカリキュラムやコースは設定せず、全生徒が幅広い教養と奥深い洞察力を身につけるよう、各教師がオリジナル教材で授業を展開しています。生徒も教職員も、これを「筑駒の教養主義」と呼び、大切にしています。

学校行事で創造性とリーダーシップを

上の4点の写真は左から、筑駒の三大行事「音楽祭(6月)」 「体育祭(9月)」 「文化祭(11月)」と「ロードレース(1月)」の一コマです。このほかにも、「校外学習(5月)」 「弁論大会(2月)」など、一年を通して数多くの行事が実施されています。大きな特徴としては、学年を超えた実行委員会での全体運営、HR(学級)活動を母体にした長期的な取り組み、高校3年生の圧倒的なパフォーマンスが挙げられます。これらの過程で生じる葛藤・論議・打開・総括から、個々人の豊かな個性と創造性、リーダーシップとそれを支えるフォローシップが育っています。

先導的な教育の実践・発信・社会貢献

幅広い教養を身につけるとともに、将来のリーダー養成をめざした先導的な教育の推進と発信にも、力を注いでいます。SSH事業では、全教科で「国際社会で活躍する科学者・技術者を育成する中高一貫カリキュラム研究と教材開発」に取り組んでいます。また、中高大院の連携の一つとして、年2回の「筑波大学訪問(次頁、挑戦編参照)」も恒例となりました。



さらに、受けた恩恵に対して少しでも恩返しを、との思いから、本校の生徒・卒業生・教職員を活用した筑波大学社会貢献プロジェクト「筑駒アカデメイア(次頁、貢献編参照)」、地域にある小学校での「サマースクール」などで地域社会への貢献も行っています。

いずれもそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。

する多くの卒業生を輩出している、東京都世田谷区にある筑波大学附属駒場中・高等学校を紹介します。

ー自由・闊達^{かつ たつ}の校風のもと、「挑戦し、創造し、貢献する」生き方をめざすー



◆挑戦編「中3筑波大学訪問の一日」

毎年2月に中学3年生が、7月に高校2年生が筑波大学を訪れ、各研究室で指導を受けています。以下は、今年の2月10日の「中3筑波大学訪問」の様子です。

- 9:50 つくば駅に集合
初めてのTX。椅子はちょっと硬いが、秋葉原から快速であつという間の45分
- 10:40～ 山田信博先生(現学長)の講演(大学会館国際会議室)
「大学とは何か?学問とは何か?」を分かりやすく丁寧に説明していただいた。
アカデミックな雰囲気、に、わんぱく小僧も思わず学者気分に。
- 11:15～ 昼食 いくつもある大学の食堂。生徒は、食堂とメニュー選びに大忙し。
- 12:15～13:30/13:45～15:00 グループに分かれて授業・研究室等の見学

120人の生徒に対して27講座も開設していただいた。「裁判員制度を体感しよう」「日本語の多様性について考える」「ロボットの知能」「未来を創る光化学」「菌類胞子の走査型顕微鏡による観察」「南極から見た地球の進化」「マウスを利用する医学研究の最前線」など魅力的なテーマが満載。あつという間に時間が経ち、多くの講座で延長していただいた。15歳の少年にとって、見るもの聞くものすべてが新鮮な驚き。ちょっと背伸びをしたぜいたくな体験でした。



◆貢献編「筑駒アカデメイア公開講座の一日」

2007年度から、3月の最終土曜日に教員と生徒が中心となり、地元の方々向けに「公開講座」を開催しています。以下は、主な講座と参加者たちの声です。

対象者: 世田谷区・目黒区の小学生～社会人(講座によって異なります)

- 講座名: 「エンゲキワークショップでコミュニケーション」 「レゴで数学」
「あなたは本当にお酒に強いのか?DNAを抽出して診断します」 「Let's play "BLIND - SOCCER"!」
「ネイティブと話そうー英語でコミュニケーション・入門編ー」 「身近な色を調べてみよう」
「電池のしくみを調べてみよう」 「囲碁を楽しむ」
「音読と暗唱で英語力をアップ」 「将棋を楽しむ」
「声楽公開講座(イタリアの歌)」 「環境地図をつくろう」
「駒場界隈に近代世界の歴史を訪ねて」など。

小学生からお年寄りまで、地元の方々に学校を開放しました。参加した方々の感想は、「みんなで協力すれば難しい事もできるんだ(小学生)」「高校生の先生は、とても優しくった(小学生)」「理科がニガテな私でも楽しく受講できました。子どもたちもとても楽しそう(保護者)」「わー!これがDNAなんだ(社会人)」「障害者の優れた鋭い身体感覚を学んだ(社会人)」など。本校の高校生も、教えることの楽しさと難しさを知り、「教えること=教わること」を痛感していました。



第5回 蹴球部

伝統の力、今こそ発揮!!



チームエンブレムには「SINCE1896」の文字。今年、創部113年目を数える、国内大学でもっとも歴史がある「筑波大学蹴球部」(浅井武顧問)。伝統と強豪の同部でプレーしたいと、熱い闘志で全国から入学した部員は、現在約170人。3軍制を採用し、A～Cの3つのカテゴリーに分かれ、練習や試合を行っている。トップチームは30人ほど。これまでリーグ戦の優勝14回、準優勝7回、総理大臣杯優勝などを誇る名門だ。OBには日本サッカー界はもとより、世界を舞台に活躍するプレーヤーや、多くの指導者も輩出している。同部トップチームを指導する風間八宏監督もその一人で、OBや恩師からの熱い

ラブコールもあって昨春、監督に就任し、風間体制は今年2シーズン目を迎えた。

「就任した時は、予想していた以上にレベルが違っていたので、さてどうしたものかと思ったけれど、最近になって、やっと形が見えてきたかな」と、風間監督。2年前、チームはあわやリーグ2部落ちの危機に陥っていた。しかし、風間体制で立て直しを図り、インカレ決勝戦にまで進む快進撃を見せた。主将の大塚翔太選手(FW・体専4年)は「(風間監督は)サッカーに厳しい人。個々の潜在意識を伸ばし、考えるサッカーを教えてくれる。負ける気がしない」と監督に全幅の

このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

蹴球部 [記録・日程]

■第83回関東大学リーグ戦(1部:前期)
9位

■第83回関東大学リーグ戦(1部:後期)
9/5～11/22 龍ヶ崎市陸上競技場たつのこフィールド 他

ハンドボール部 [日程]

■高松宮記念杯
第52回全日本学生ハンドボール選手権大会(男子)
第45回全日本学生ハンドボール選手権大会(女子)
11/7～11 いしかわ総合スポーツセンター

剣道部 [記録・日程]

■第58回関東学生剣道優勝大会
【男子】準優勝

■第57回全日本学生剣道選手権
優勝 西村英久、3位 寺島光紀

■第57回全日本学生剣道優勝大会
10/25 日本武道館

体操部 [記録]

■ラート
【団体】優勝 江塚和哉、榊原厚一、三宅麻衣子、吉永直嗣
【男子個人】優勝 江塚和哉
【男子種目別】「直転」優勝 江塚和哉
「斜転」優勝 江塚和哉
【女子種目別】「斜転」優勝 三宅麻衣子
「跳躍」優勝 三宅麻衣子



信頼を寄せる。名門であるがゆえ、優勝争いが責務のチームにとって、国内外のサッカーを知る風間監督の存在は大きい。

「一人一人がレベルを高めれば、それが、チームの力になり結果が付いてくるはず」(DF・作田裕次選手、体専4年)、「いつ、どこで、何を、を瞬時に判断できる能力が不可欠」(GK・碓井健平選手、体専4年)と主力メンバーが口にするように、様々な状況に対応できる技術

と精神力が勝利を導くカギ。グラウンドでは風間監督が選手の動きを目で追い、常に試合を意識しながらの練習が繰り返されている。

風間監督は「勝つ気持ちを持つのは当然だけれど、勝ち負けではなく、グラウンドで一人一人が力を出し切ることが大事。まずはそこから」と話す。育成のヒントを伺うと「勝ち負けやテクニックではなくて、辛抱することやあきらめないこと。それを伝えたいし、教えたい。必ずそこから得ることがあるから」と、まずはメンタル面の大切さを説く。「わたしの(筑波大)時代と比べたら、環境に恵まれているよ。でも個々の成長は世界と比べても数年劣っている。けれど、大学時代は生まれ変わるチャンス。どこまで伸ばせるか、その成長を見てみたいね。代表選手やコーチ、サッカーに携わる人物をこの筑波から発信していきたいし、それができていると思っている。大学はたくさんの可能性を秘めているはずだから」と期待を込め、「(選手は)まじめに一生懸命、ひたむきですよ。だから後輩であるこのチームに、できる限りのことをしてあげたい」と優しいまなざしを向ける。

チームは今年、「蒼覇^{そうは}」をスローガンに立てた。筑波ラーの「蒼^{あお}」い志しを持ち、昨年あと一步でつかみそこねた全国制覇^{あお}を目指して、チーム一丸、練習に励んでいる。大塚主将は「見ている人に面白いと思ってもらえるサッカーをしたい」と熱っぽく語る。

関東リーグ戦は前期を9位で折り返した。技術面はもちろん、精神的にも強く成長したイレブンは、リーグ戦を戦い、その先にある日本一を取りに行く。

バレーボール部 [日程]

■第62回秩父宮賜杯・第56回秩父宮妃賜杯
全日本バレーボール大学男女選手権大会
11/30～12/6 東京体育館

バスケットボール部 [日程]

■関東大学バスケットボールリーグ戦(1部)
【男子】9/19～11/1 国立代々木競技場第二体育館 他
【女子】9/5～10/25 国立代々木競技場第二体育館 他

ラグビー部 [日程]

■関東大学対抗戦(Aグループ)
9/13～12/5 秩父宮ラグビー場 他

アメリカンフットボール部 [日程]

■関東学生2009年度秋季リーグ(2部Bグループ)
9/6～11/28 川崎球場 他

陸上部 [記録・日程]

■天皇賜杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会
【男子100m】1位 斎藤仁志 20秒77
【男子1600mリレー】1位 佐藤慧太郎、田中暢人、渡邊諒、石塚祐輔 3分6秒57
【女子総合】優勝
【女子三段跳】1位 前田和香 13m01
【女子砲丸投】1位 蛭田怜菜 14m75
【女子七種競技】1位 竹原史恵 5185点

■第86回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
10/17 陸上自衛隊立川駐屯地

柔道部 [記録・日程]

■全日本学生優勝大会
【男子】3位
■第25回ユニバーシアード競技大会
【男子73kg級】9位 粟野靖浩
■第27回世界柔道選手権
【女子48kg級】優勝 福見友子

■全日本学生柔道体重別団体優勝大会
11/2～3 尼崎市記念公園総合体育館

第5回 筑波大学応援部 WINS

筑波を元気にする、緑の下の力持ち



“フレーツ!フレーツ!筑波!!” — 声を張り上げ、熱い声援と力いっぱいの拍手を送る。「筑波大学応援部 WINS」(佐藤政良顧問)は「応援活動を通じて、筑波大学を元気にする」をモットーに活動する、学内唯一の応援組織だ。

本学の応援組織の歴史をひもとくと、始まりは1987年。硬式野球部の国立大学初の全国制覇がきっかけで、応援リーダーとチアリーダーで結成する「筑波大学応援団」が誕生した。1997年にはマーチングバンドを加えスケールアップし、名称を「筑波大学応援団桐葉^{とうよう}」と改称。その後、部員増減による形態再編などの紆余曲折を経て、2007年に「筑波大学応援部 WINS」として新たなスタートを切った。

応援部(団)は、スポーツ競技応援のイメージが強く、体育系所属と思いがちだが、同部は芸術系サークル連合会に所属する。現在の部員は33人。応援司令塔のリーダー(部員5人)と、応援をより華やかに演出するチアリーダー「FROGGIES(フログギーズ)」(同13人)、軽快な演奏で一段と場を盛り上げるアンサンブルバンド(楽器部門)「Tutti(トゥッティ)」(同15人)の3部門で構成している。部門ごとに週2回、本学南地区にあるクラブハウス前や野球場脇の野生の森、春日キャンパス講堂で、発声や演奏、スタントと呼ばれるアクロバ

チックな動きの練習を行い、体力や精神力、技術を磨いている。

主な活動は、アメリカンフットボール部やラグロス部など体育会サークルの試合で本学の勝利を願って、チームや選手の士気を鼓舞し、スタンドを盛り上げる応援。そのほか、入学・卒業式やどかり祭、雙峰祭など学内イベントや独自企画でエールを送ったり、演舞披露など、さまざまな角度から本学を応援すること。

同部を率いる緒方辰悟主将(生命環境学群生物学類3年)は「ひと言で言うと、WINSは和気あいあいとしたサークルです。礼儀や節度など古き良き伝統を守りながらも、私たち独自の応援スタイルを構築していきたい」と胸を張る。

本学が歌い継ぐ宣揚歌「桐の葉」や学生歌「常陸野の」に合わせたエールの振り付けは、「桐葉」OB有志の指導とアドバイスで習得し、伝統を受け継ぐ。応援は緑の下の力持ちだが、演舞ステージは“主役”になって同部をアピールできる場だ。バンド演奏も、軽快なリズムに乗せてパフォーマンスを展開、J-POPなどの親しまれる曲を取り入れるなど、伝統を守りつつもアレンジを加え、WINS独自のスタイルを作っている。

本番前、正装に身を包み、応援部の証しである腕章を身に付けると、この瞬間からキリッと引き締まった

表情に変わり、真剣そのもの。同部では「(腕章を)付けている間は、応援部の自覚を持ち、全力で応援する」のが決まりで、大切な儀式だ。

先頭で指揮を執る緒方主将は、体を大きく反らせて声を出し、リーダーたちは全力で腕を振る。チアは揃いのコスチュームを着てポンポンを両手に、明るい笑顔で軽やかな動きを見せる。バックを固めるバンド演奏にも力がこもる。そんな応援やエールを見た人たちから「勇気がでた」「元気をもらった」と言ってもらえることが一番うれしい」と話すのは、チアリーダーの山崎茜さん(社会・国際学群国際総合学類3年)。「励みになります」と、目を輝かせる。

緒方主将は「私たちは、たかが応援部、されど応援部。自分たちに何ができるのかを考えながら、いろんなパ

フォーマンスで筑波大生を元気にするお手伝いができれば」と、意気込む。「WINSには大応援旗がないので、できれば、筑波カラーの大きな応援旗を作って、堂々と掲げたい」と、本音もチラリ。

部員みんなが「やりがいを感じる」と口を揃え、誰かを応援することに誇りを持っている。リーダー、チア、バンドが三位一体となって、勝利を願い、本学を元気に盛り上げる。

これからイベントが目白押しだ。闘志は一段と熱く、WINSは本学応援部の新たな歴史を刻んでいる。



このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

吹奏楽団

11/1 第62回定期演奏会 [場所] ノバホール
[時間] 午後6時開場/6時半開演
[料金] 前売り¥400、当日¥500
(高校生以下無料)

合唱団むくどり

10/27 第29回定期コンサート [場所] つくばカピオホール
「むくどり秋のうたまつり」 [時間] 午後6時開場/6時半開演
[料金] 入場無料

混声合唱団

12/20 第34回定期演奏会 [場所] ノバホール

ギター・マンドリン部

1/16 第31回定期演奏会 [場所] ノバホール

芸サ連クリスマスコンサート

12/22 [場所] 大学会館

第20回国際生物学オリンピック (IBO2009つくば) 開催

第20回国際生物学オリンピック (IBO2009つくば) が7月12日～19日、本学をメイン会場につくば市で開催されました。今大会には56カ国・地域から選手221人と、59カ国・地域からJury・オブザーバー214人が参加、過去最大規模の大会になりました。筑波大学からは、100人を超える教職員と150人もの学生ボランティアが参加し、大会の運営に当たりました。



■「国際生物学オリンピックを振り返って ―筑波大学生の力―」



国際生物学オリンピック2009
組織委員会実行委員長
生命環境科学研究科 教授
沼田 治



同実行委員会事務局長
企画室 講師
岩本 浩二

第20回国際生物学オリンピック (IBO2009つくば) が本学を主会場に開催されました。4人の日本代表はベストを尽くし、千葉県立船橋高等学校3年の大月亮太君は日本人初の金メダリストとなりました。また、灘高等学校 (兵庫県) 2年の中山敦仁君、桜陰高等学校 (東京都) 2年の谷中綾子さん、同3年の山川眞以さんの3人も銀メダルを受賞し、日本チームは過去最高の成績を挙げました。IBOの成果は新聞、テレビ等のメディアでも大きく取り上げられ、多くの方々の知るところとなりました。また、改修直後の試験会場に選手やJuryから感嘆の声が上がり、つくばナイトでは第2エリア食堂を会場に、ときめき太鼓塾、YOSAKOIソーランチーム斬桐舞などの大学挙げての歓待に参加者たちは大いに盛り上がりました。

このIBOの成功の要因について述べさせていただきます。第1はギリシャのキャンセルで日本に転がり込んできたIBOを本学が引き受けたこと。第2は1億3千万円の募金に関係者の努力と企業、学協会、個人等の協力で金融危機の前に達成されたこと。第3は本学生物学類教員の全面的な協力。第4は科学委員会の先生方の良問作成への並々ならぬ努力があったこと。第5は関係諸機関との連携が滞り不協和音が響くなか、通常業務の停滞を顧みずIBOのために協力をして下さった本学事務職員の存在です。この場を借りて感謝申し上げます。そして、最高の

要因はボランティアやティーチングアシスタントとして大会運営に献身的に協力した本学の学生諸君のマンパワーです。

今回盛りだくさんのスケジュールの円滑な進行と、大きな成果は、本学生118人が参加した学生ボランティア組織SCIBOと多くのティーチングアシスタントの院生諸君の献身的な協力なくしてはあり得ません。56カ国の選手たちのサポート役として各国に一人ずつ付いたチューター役の学生たちは、言葉の不便を情熱と誠意でカバーしました。また、実験試験や理論試験を担当したティーチングアシスタントの協力なくして、試験の成功はあり得ませんでした。エクスカッションに付き添った学生たちの配慮、つくばナイトで裏方に徹した学生スタッフの協力、本当に素晴らしいものでした。参加した選手諸君も、IBOを通して大きく成長しましたが、サポート役として力を発揮した学生たちの成長も目を見張るものがありました。初めは教員の指示を待っていた学生たちも、自主的に問題を解決し、さらには各自が工夫を凝らし円滑な運営を実現していきました。今回のIBOは選手諸君と運営に協力した学生諸君、まさに若者たちのオリンピックであったと思います。私はオリンピックを通じて本学の学生の実力を強く感じました。

第5回全国物理コンテスト物理チャレンジ2009開催

第5回全国物理コンテスト物理チャレンジ2009が8月2日～5日、筑波大学をコンテスト会場として開催されました。20歳未満で高等教育機関に就学する前の男女青少年を対象に実施され、第1チャレンジにより選抜された101人のチャレンジャーが理論問題と実験問題に挑みました。

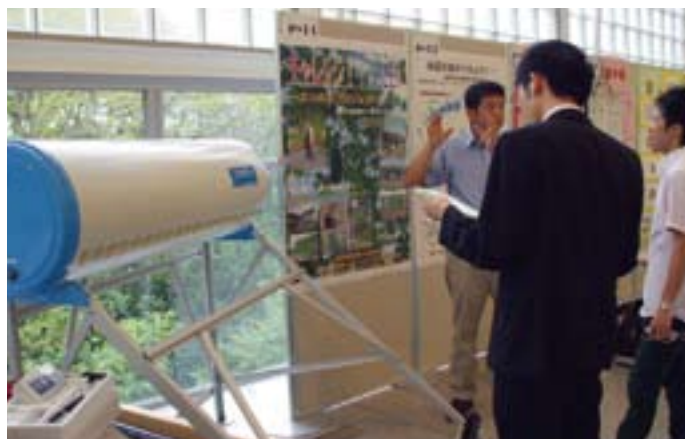
表彰式では、金銀銅のメダルのほか、特別賞として、筑波大学長賞等が贈られました。今後、この受賞者の中から5人が選出され、2010年にクロアチアで開催される第41回国際物理オリンピックに、日本代表として派遣されます。



第3回つくば3Eフォーラム開催

第3回つくば3Eフォーラム会議が8月8日、つくば国際会議場で開かれ、約330人が参加しました。

会議では、「つくば環境スタイル行動計画」について多くの市民の方々と意見交換を行うとともに、筑波研究学園都市ならではの最先端技術として期待される藻類燃料の発展性と、国際的な動向に関する招待講演を行いました。



福見友子選手 世界柔道選手権で金メダル獲得



8月26日、オランダのロッテルダムで開催された、第27回世界柔道選手権大会で、女子48kg級に出場した福見友子選手(人間総合科学研究科体育科学専攻前期課程2年)が金メダルを獲得する快挙を遂げました。

福見選手は、昨年12月の「嘉納治五郎杯東京国際柔道大会」、今年4月の「全日本選抜柔道体重別選手権大会」でも優勝しており、2012年開催のロンドンオリンピック出場に向け、活躍が期待されます。

来訪者〈海外〉

7月6日(月)
副学長表敬及び調印



来訪者：中国
華南師範大学副学長一行
目 的：本学と国際交流協定を調印及び体育関係者との意見交換

8月26日(水)
副学長表敬



来訪者：チュニジア他アフリカ6カ国アフリカ開発銀行(AfDB)訪問団一行
目 的：本年イタリアで開催されたG8において支援を行うと発表された、ユーカリの栽培に関する研究成果の見学、利用の可能性検討及び今後の技術移転の企画の意見交換

受賞

■山海嘉之教授が平成21年度全国発明表彰「21世紀発明賞」を受賞

山海嘉之教授(システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)が本年度の全国発明表彰「21世紀発明賞」を受賞しました。

受賞の対象になったのは、ロボットを人の体と一体化させ、人の体の一部として機能させるという世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL」を完成させたことによるものです。

同賞は、優れた発明を完成した人、実施化に尽力した人、発明の指導・奨励・育成に貢献した人を顕彰することにより発明の奨励・育成を図り、我が国科学技術の向上と産業の振興に寄与することを目的としており、科学技術的に秀でた進歩性を有し、かつ特許権等の設定登録後3年以内の発明が対象となっています。



●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導・研究室
瑞宝中綬章	野村二郎名誉教授	_____
社団法人日本超音波医学会 第10回奨励賞	石津智子講師 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)	_____
Pander Society Hinde Medal 2009 国際コノドント研究学会 若手奨励賞	上松知子助教 (生命環境科学研究科 地球進化科学専攻)	_____
第4回日本動脈硬化学会五島雄一郎賞	島野仁教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)	_____
医学教育振興財団 医学教育賞(懸田賞)	前野哲博教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)	_____
第9回国際藻類学会議 The George F. Papenfuss Awards	井上勲教授 (生命環境科学研究科 構造生物科学専攻) 中山剛講師 (生命環境科学研究科 構造生物科学専攻)	_____
第19回体力・免疫学会学術賞(三島賞)	笹原信一朗講師 (人間総合科学研究科 生命システム医学専攻)	_____
日本統計学会統計教育賞	附属駒場中・高等学校	_____
感謝状(東京消防庁世田谷消防署長)	附属駒場高等学校	_____
平成21年度茨城県救急医療功労者知事表彰	安田貢講師 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻、 附属病院救急・集中治療部副部長)	_____
IJCAI-09 AI Video Competition Award	星野聖教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻) 富田元將 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻博士前期課程2年) 谷本貴顕 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻博士後期課程1年)	_____
Best Paper Award of Cryptographic Hardware and Embedded Systems 2009 (CHES2009)	岡本栄司教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻) Jean-Luc Beuchat准教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)	_____
平成21年度独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST) 採択	恩田裕一教授 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻) 岡田晋准教授 (数理工学科学研究科 物質創成先端科学専攻)	_____
三田図書館・情報学会学会賞	谷口祥一教授 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)	_____
2009アジア子ども支援学会優秀発表賞	西村実穂 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻1年)	徳田克己教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻、 生活支援学分野) 水野智美准教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻※H21.9.1より)
第10回日本食品工学会優秀発表賞	神津博幸 (生命環境科学研究科1年)	市川創作准教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 佐藤誠吾教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 中嶋光敏教授 (生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻)
JSP(The Japanese Society of Phycology) Student Poster Award	池田啓二 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻一貫制博士課程3年)	渡邊信教授 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻) 田辺雄彦助教 (生命環境科学研究科 生命共存科学専攻)
第35回川端康成文学賞	青山七恵 (図書館情報専門学群 H16年度卒)	_____



— 学生生活についてお聞かせ下さい

学生時代はパソコンすら触ったことがなく、機械音痴でした。することといえばアルバイトばかり。ジャズバーや家庭教師、レジ打ち、ケーブルTVなど。勉強よりバイトばかりの記憶が大きいですね。

— 進路はどのように決定されたのですか

マルチメディアに興味があり、3年時に受講した天野勝文先生のメディア論に刺激されました。それと、ケーブルTVでのバイトを通して、もっとユーザー参加型のメディアができれば面白いだろうと思ったこと。また、卒論で雑誌「クロワッサン」を研究し、メディアが何を訴え掛けるかで女性のライフスタイル指向が変わるのではという視点を持ち、マルチメディア関係に進みました。

NTTに就職した96年はWindows95が日本上陸した翌年で、「インターネットで世界が変わる」と世の中の機運が高まっている中で、「すごい可能性」を感じていました。配属されたマルチメディア情報ネット推進部は、学生時代からネットの世界にどっぷり漬かっていたネットネイティブばかりで、後にベンチャーを立ち上げた同僚が続々出ました。ネットによって10年後の世界がどう変わるかを、毎日ディスカッションしている活発な部署で、「こんな世界があるんだ」と身震いする感動がありました。

— パソコンが未経験で困らなかったのですか

部署ではすごい笑い者でした。マッキントッシュの「MacOS」の画面を見て「マックスって何？」と聞いたほどです。当時の技術レベルは低く、まだできないことがいっぱいありましたが、私は、生活者の感覚で「なぜほしい情報は出ないの」、「こんなサービスがあったらいいな」と、全く技術を危惧せず概念にとらわれなかった。今思えば、知らなかったことが強みだったと思っています。

地に足のついた
ミールでいる
栗飯原理咲

インターネットで人気サイトを運営する

アイランド株式会社の社長・栗飯原理咲さん(社会学類・96年卒)に、

アイデア誕生の経緯や日々感じていること、働く女性環境などについて、お話を伺いました。

あ い はら り さ
栗飯原理咲さん
アイランド株式会社(代表取締役)

1973年 大阪府生まれ
1996年 筑波大学社会学類卒

NTTコミュニケーションズ株式会社先端ビジネス開発センタ、株式会社リクルート次世代事業開発室・事業統括マネジメント室、総合情報サイト「All About」マーケティングプランナーを経て、2003年7月よりアイランド株式会社代表取締役。日経ウーマン誌選出「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」2000年度ネット部門第1位、2003年度同賞キャリアアクリエイト部門第6位受賞。

プロフィール



—転職、そして独立のわけは？

NTTで4年働き、コンテンツ作りがやりたくて、リクルートに転職しました。次世代事業開発部門での3年目に、温めていたお取り寄せのアイデアをどうしてもやってみたく、退職後、アイランドの代表になり、「おとりよせネット」をスタートさせたのがビジネスの始まりでした。不安よりも、このサービスは絶対ブレイクするという意気込みの方が強かったですね。

—独立当初についてお聞かせ下さい

自分たちが作り上げたものに、ユーザーからダイレクトに反応があり、日々進化し続ける仕事なので面白かった。事務所を持つ資金もなく、創業仲間3人と夜な夜な無線LANができるファストフード店でミーティングです。実は「おとりよせネット」は某バーガー店で開設しました。毎日が文化祭前日みたいなワクワク感に溢れていました。

—「アイランド」の事業内容をお聞かせ下さい

女性向けポータルサイト運営です。主に口コミお取り寄せの「おとりよせネット」と、国内最大級の料理ブログ「レシピブログ」、国内で初めて朝という時間に注目した「朝時間.jp」、今年スタートした「子育てスタイル」の4サイトを運営しています。4サイトで月間500万件以上のアクセス数があり、ユーザーさんに楽しんでいただいているので、ここを通して様々なクライアントとお付き合いしている形の事業です。「レシピブログ」ではブロガーさんたちがこんなにもカリスマ的存在になるなんて想像もつきませんでした。どのサイトも参加する方がいないと成り立ちませんから、みんなで作り共に育ってきたという思いです。

—口コミマーケティングでの集客プロモーションのポリシーを教えてください

小さなベンチャー企業では広告にお金をかけられません。従って、口コミで広げていただくために、分かりやすいサービスを立ち上げることが1番のポイントです。今までありそうでなかった、あったらうれしいサービス。サイト名を聞いただけで分かる、単純な分かりやすさです。そして、「同じテーマのブログが集まっているポータルサイトって無かったよね」と、新しいサービスを作り、それを「面白いサイトがあるよ」と口コミで広げていただくのが理想的です。

—アイデアはどのように生まれるのですか

よく着眼点が面白いと言われる。弊社では雑談を重要視していて、毎週、社内朝会を開き、感動したことや面白かったこと、週末の行動などを発表してヒントにしています。盛り上がる話題もあればそうでないものもあり、その反応で話題や興味の方向をつかみます。積極的に雑談をして新しいサービスの芽を見つけ、ドメインを取得しています。

—今、関心をもっていることや次の目標は？

20～40代を中心層に、楽しんでもらえるライフスタイルテーマのサイトを、時代に合わせて作っていきたくと思っています。今まで国内に特化してきましたが、今秋に初めて海外に向けiphoneアプリでジャパニーズレシピを始めます。



—ご自身が目標にしていることはありますか

コピーライターの糸井重里さんやイラストレーターの大橋歩さんのように、独自のライフスタイルを築き活動する姿に憧れています。その時々で自分が楽しいと思ったことを仲間と作っていく生活を送っていきたく。私の座右の銘は「地に足のついたミーハーでいる」です。ふわふわしているだけでなく、地に足をつけて、素直に面白いと思ったことを自分自身に取り入れていけたらと思っています。

—働く女性の社会環境について、感じていることをお聞かせ下さい

女性がすごく働きやすい時代になっていると思います。草食男子なんて言い方がありますが、男性も女性らしい感覚や細やかさを持つなど、時代全体が女性的になっているし、女性であることが強みになる仕事が増えている気がします。そんな社会環境が後押しして、女性が働き続けていける土台が整ってきた。なかでもインターネットはそれを助ける存在ではないでしょうか。弊社でも育児や介護のため、出社から在宅にチェンジして仕事を続けているメンバーもいます。これまでだったら、仕事を辞めざるを得なかったと思うのです。しかし、ネットがあれば、何らかの状態で社会に携わり、仕事を続けられる可能性が広がっています。

—本学の起業を目指している学生たちにメッセージをお願いします

起業って人とのつながりがすごく大切。私の場合、学生時代の友人に助けられることが多いので、学生さんにはこの先10年経った時に、お互いに助け合えると思える友達がいれば、社会人になってすごく心強いはず。筑波大生は様々な業界に広がっていますから、幅広く友達を作るチャンスです。

おとりよせネット  <http://www.otoriyose.net/>

レシピブログ  <http://www.recipe-blog.jp/>

朝時間.jp  <http://www.asajikan.jp/>

あたし×ことも、
子育てスタイル  <http://www.kosodate-style.jp/>

リレー エッセイ

附属病院
看護部長

白川 洋子さん



看護部長室は病院2階の東側に位置し、ブラインドの隙間から職員や学生の行きかう様子が見えます。朝9時ごろになると夜勤を終えた看護師たちが、緊張からの解放感でおしゃべりに忙しく、「お疲れ様です」の声と共に疲れた様子の靴音が部長室に響きます。また、春先はコブシのつぼみをいち早く発見することができ、季節の移ろいを知らせてくれます。このような部長室ではありますが、窓を開けることはできません。窓どころかブラインドも全開にすることができません。思いっきり開けると、部長が丸見え、部屋も丸見え、行きかう人も丸見えになってしまうからです。丸見えはお互いのためによくありません。少し見えるくらいが心地いいかなと思いますが、一度は全開にしてみたい今日このごろであります。

今回は、病院総務部医事課の岡澤貞雄さんです。
「病院を利用する方たちの防犯活動をしています。岡澤さんがいるだけで職員は安心です。また、美しいチョウのコレクターで、私たちを楽しませてくれます」

監査室

阿内 敦子さん



ぶくぶくした頬^{ほお}をして医学の先生の勤務時間割振表を作っていたころ、30年後には監査室の怖いおばさんになっているとは想像もしませんでした。
そんな私が唯一趣味らしい「映画鑑賞」から、今年見たベスト3を独断と偏見と監査的視点!?で選びました。まず第3位は、ロケ地の県北(my実家)に敬意を表して「ディア・ドクター」。続いて第2位は、偏屈で頑固な老人ぶりがかっこいいイーストウッドの「グラン・トリノ」。そして第1位は「ベンジャミン・バトン」。若返ったブラピの美しさに見とれました☆☆☆
(内容にはまったく触れていない点はご容赦を…。)

今回は、人文社会科学等支援室の落合俊介さんです。
「係長になった時の、初めての部下でした。気負いそうになる自分を支えてもらった、しっかり者の2児のパパです」

附属高等学校
教諭

菱沼 聖子さん



古道歩きが趣味です。特に京都・奈良の道が好きで、学生時代は京都の寺の手伝いをしながらたくさん道の道を歩きました。
古道の魅力は、歴史を体感できること。いにしえの人が歩んでできた道が、さまざまな歴史を積み重ねて現在に繋がっているのだと思うと、はるか昔の出来事が身近に感じられます。私は古文を担当しているのですが、実際に古典作品の舞台を歩いた経験は、本からは得られない、貴重な財産です。
附属高校に赴任して2年目になりました。
私が歩いていく道はまだまだ長いですが、一步一步、しっかりと成長していこうと思います。

今回は、人間総合科学研究科 学校教育学専攻教授兼附属小学校校長の塚田泰彦先生です。
「院生時代の担任の先生です。穏やかで優しい塚田先生に励ましの言葉をいただくと、いつもあたたかな気持ちになります」

医学系支援室

樺山 綾子さん



私の夏の味といえば、ヘチマと豚肉の味噌炒めである。この辺でそう言うと「食べられるのか!？」とたいそう驚かれる。もちろん、ほねほねスポンジたわしのヘチマには、どうしても歯が立たない。なので、身丈20センチほどのヤングマンをいただく。
将来像からはとても想像できない、とろみのある柔らかな食感と味噌のハーモニーは絶妙！
ご飯も酒も、どんどん進む。
沖縄のニガウリが全国進出を果たしたのだ。食用ヘチマ諸君、きばってデビューしてくれたまえ！
なぜならば、我が家のベランダではヘチマが育たないから…

今回は、医学系支援室の坂本順子さんです。
「標本作製室の頼れる姉御。今度おいしいコーヒー飲みましょう」

人文社会科学部
現代語・現代文化専攻長

川那部 保明さん



＜桜さくら＞

桜さくら 筑波嶺の地の 桜の名所
北条大池 農林団地 桜川堤など 数多けれど
必見桜の第一は 面野井の里の しだれ桜
卯月の盛りに 一二三号線 日本自動車研究所前を
左へ曲がり 島名方面に 路をとれば
ややありて 風花のごとき 淡き花びら 舞いたる
近よれば その白雲は 万丈に余り
その枝振りは 天より降るが如し
樹齢一五〇有余年 根元には
犬畜生のための墓 秘やかに立てり
万延元年立なり

次回は、本部付き教授の荻野祥三さんです。
「昨年4月にご着任なされた、新聞畑ご出身の教授です。筑波大学
新聞編集委員長で比較文化学類でも、マスコミ関係の授業をもって
おります」

生命環境科学研究科
生物圏資源科学専攻
助教

阿部淳一・ピーターさん



就職してから定期的に特定非営利活動法人や財団法人などに寄付をしていましたが、結婚して娘を授かってから、自ら携わる活動をしたいと、つくば市内で清掃ボランティア活動に参加させてもらうようになりました。この活動で私が感じたことは、毎週、清掃場所でタバコの吸い殻を回収しても、次の週にはまた、新しい吸い殻が同じ所に落ちており、あきらめずに拾い続ける大切さを実感しました。これは、子育てにも通じるところもあり、あきらめずに根気よく、優しく、温かく相手がわかるまで、親心を伝え続けることが大切と思うようになりました。

次回は、プラズマ研究センターの嶋頼子さんです。
「何に対しても前向きで一生懸命な姿に励まされ、いつも元気を
いただいています」

アドミッションセンター
准教授

本多 正尚さん



高校卒業以来、京都、信州、沖縄等の観光地を巡り、今年12回目の引っ越しをして、東海村の実家に戻ってきました。しかし、片道75キロの通勤に耐えられず、3カ月で13回目の引っ越しとなりました。住民票上の転居はさらに1回多く、住所の「ヶ」が半角から全角に変わったときは（市役所ではこれも住所変更だと言っていたが、手書きの場合はどう区別するのだろうか?）、前住所の記載がある住民票を取るのに苦労させられました。大学院卒業後に所属した組織のほうも6つ目で、そろそろ腰を据えて物事をやりたいと考えているところです。

次回は、病院総務部医事課の高野雄二さんです。
「高野さんは私がアドミッションセンターに着任したときにお世話
になった方です」

附属学校教育局 学校支援課

木城 みゆきさん



夏休みに、ある地震小説を読みました。途中から「これは大変!」と防災グッズ集めが始まりました。リストアップした震災用品はなかなか揃わず、意外にも登山用品店で、使えそうなものをたくさん発見。さながら夏休みの自由研究です。一番熱が入ったのが非常食で、ガスと電気がなくても発熱材で温かく食べられる各種セットを購入。試食してみたら、これがとても美味しい!地震はいやですが早くほかの種類も食べてみたいので、毎年防災の日に計画的に消費・買い替えしようと思いました。次の防災の日がとても楽しみになった夏でした。

次回は、附属久里浜特別支援学校の森野昌子さんです。
「三浦半島の先からいつもさっそうと現れる森野さん。海辺生活の
お話には毎回、目が☆です」



今号から、本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔茗溪会とは〕 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立しました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

茗溪会の学生活動助成金

茗溪会は9月11日、筑波大学に対して学生活動助成金の授与式を行いました。学内学生の12団体と2個人が、9月1日に開かれた審査会で認められ、各団体の代表がこの日の授与式に出席、江田昌佑茗溪会副理事長から助成金決定通知書が手渡されました。

この事業は、同会が母校への支援事業の一つとして学生活動に対し助成金を支給しているもので、本年度で5回目となりました。筑波大学学群生および大学院生に対して、課外活動に取り組んでいる学内の認定団体および一般団体のサークル活動のほか、学外で活動する団体や個人も対象に、健全で優れた成果が期待される団体または個人に対して10万円から50万円程度、支援総額300万円を助成するものです。

本年度は15の課外活動団体等と4人の個人から応募がありました。9月1日の審査会には、茗溪会から江田・岩崎庸夫理事と田中正造事務局長、大学から西川潔副学長・柳本雄次茗溪会筑波大学支部長・加賀信広学生生活支援室長らが出席して審査しました。

●助成金を受けた団体・個人

団体	宇宙工学研究会/つくば鳥人間の会/蹴球部/ダンス部/女子ハンドボール部/ライフセービング部/陸上競技部/芸術系サークル連合会/管弦楽団/応援部WINS/宇宙技術プロジェクト/つくばろぼっとサークル
個人	杉本裕代(人文社会科学部研究科)/村松遼太(教育学類)



助成金を受け取る女子学生



助成金授与式後の記念撮影

茗溪会が筑波地区で公開講座開く

9月26日、茗溪会主催で筑波地区の公開講座「文芸公演・朗読『平安朝の女性像をめぐって～源氏物語から』」(女優・幸田弘子)が、筑波大学大学会館ホールで開催されました。朗読の第一人者として人気の高い幸田弘子さんは、

源氏物語の朗読を通して、平安朝の女性像を描き出しました。筑波大学生や近隣から多数の参加者があり、会場は満員の盛況でした。この講座は、筑波大学、茨城県、県教育委員会、つくば市、市教育委員会などから後援をいただき実施しました。



朗読する幸田弘子さん(左)とフルート奏者の福島さやかさん

茗溪会のつくば公開講座

本年度3回を予定していますが、今後の予定は次のとおりです。

- 10月25日(日) 筑波研修センター
日英ことば遊び入門(講師・藤原保明 筑波大学名誉教授)
- 11月14日(土) 筑波大学大学会館
地雷除去活動の促進のために
～子どもたちの救済・難民の職業訓練～
(講師・中込璋 JICA個人コンサルタント)



今号から、本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【紫峰会とは】 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。初回となる今回は、紫峰会の生い立ちを紹介します。



2008年学園祭で、大宮唯学園実行委員長（左）に援助金目録を渡す角海紀雄理事

開学当時の課外活動

開学当時、土曜日になると「筑波大学学生宿舍前」のバス停には大きな荷物を持った多くの運動部員が土浦行きのバスを待っていました。バスは晴れの日には土ぼこり、雨が降ると泥沼になるようなでこぼこ道を走っていました。学生たちは、バスと鉄道を乗り継ぐこと約3時間、東京教育大学体育学部がある幡ヶ谷へ向かいます。先輩たちと一緒に泊まりがけで練習し、試合に出場するためです。大学に向かう帰りの最終バスは「満員電車よりも混んでいた」と言われるほどでした。このような筑波と東京の「二重生活」は、時間的にも、経済的にも学生にとって大きな負担となっていました。

経済的な負担という意味では、文化系、芸術系のサークルも同じでした。文化系は活動場所が足りず、芸術系では演奏のための楽器が不足している上、練習場所もありませんでした。大学は練習施設や、サークル館などの建設を進めていましたが、移動費や楽器の購入費など、直接的に金銭面からの支援を行うことはできませんでした。

紫峰会（筑波大学学生後援会）の設立

こうした「二重生活」を目の当たりにした学生担当教室の先生方や、体育系の顧問の先生方の中から「大学の外に後援会を作って（課外活動への）金銭的な援助」を求める声があがりました。学内での議論や、財団法人筑波学都

資金財団の協力などを受けて、1977年7月に紫峰会が設立されました。課外活動団体の組織化も並行して進み、同年9月に三系（文化系サークル連合会、体育会、芸術系サークル連合会）が正式に発足しました。

設立時、会の運営は学生担当教室の先生方が行っていました。援助金の支給にあたっては、三系の代表者が話し合って決めていました。初年度は、体育会所属団体のみの支給となりましたが、2年目以降は、文サ連、芸サ連の代表者たちが徹夜で作成した資料を持ち寄り、「ひざを突き合わせ、泡を吹き出しながら」激論を交わしていく中で、各系が納得できるように金額を決めていきました。このような姿は今でも健在です。

紫峰会の学生支援は、このようにして始まったのです。



援助金の支給について学生組織の代表同士で議論している様子

	記 事	掲載 本学 関係者	掲載 紙 名
1	文部科学省が、本学など国私立13大学を「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に選定	鈴木久敏理事 清水一彦理事 塩尻和子理事 渡邊和男留学生センター長	毎日(7/4) 読売(7/4) 日経(7/4) 産経(7/4) 茨城(7/4) 常陽(7/4) 東京(7/7) 日刊工業(7/7)
2	▽時の人:本間三和子 日本水泳連盟のシンクロ委員長に就任	本間三和子准教授	茨城(7/5) 東京(7/12)
3	▽まちかど:つくば駅前でヘルスケアフェス開催	白川洋子看護部長(附属病院看護部)	朝日(7/6)
4	「石油」生む藻類 CO2とりこみ、温暖化対策も期待	渡邊信教授(生命環境科学研究科) 彼谷邦光特任教授	朝日(7/7)
5	▽農力:農家と本学生がタッグ 落下ブルーベリー生かしアイスクリーム開発に力 ▽クローズアップ:落ちた実を有効活用 ブルーベリー味の北条米スクリーム開発へ	チームごじゃっぺ 早川公(チームごじゃっぺ代表) 瀬尾誠(社会工学類4年) 澤田敏規(同3年)	朝日(7/9) 常陽(7/12)
6	日本初開催、国際生物学五輪が開幕 秋篠宮ご夫妻がお出席 56カ国・地域から高校生選手221人が挑む	山田信博学長	日経(7/13,7/13夕) 茨城(7/13,7/14) 毎日(7/13夕) 読売(7/13夕,7/14) 東京(7/13夕,7/14) 産経(7/14) 常陽(7/14) 日刊工業(7/14)
7	ディズニーが本学と共同で、自社アニメの効用分析 学習・情操面の影響評価	徳田克己教授(人間総合科学研究科)	日経産業(7/17)
8	つくば市の中学 本学生が補習指導 意欲づけに効果、好評	教育ボランティア団体・フリーエデュケーション 内藤彩(国際総合学類3年)	茨城(7/17)
9	▽多士彩々:蓮見孝教授 まちづくり、デザインから	蓮見孝教授(人間総合科学研究科)	日経(7/17)
10	「出版会」で大学売り込め 国立大、法人化で倍増 地域制も活用しPR	鈴木久敏理事	朝日(7/20)
11	数学五輪で附属駒場高3年の副島真さんが満点の成績で3年連続の金 滝間太基さん(同)も金獲得	副島真(附属駒場高3年) 滝間太基(同)	朝日(7/21夕) 毎日(7/21夕) 読売(7/21夕) 東京(7/21夕) 茨城(7/22)
12	本学がカーシェアリングを試験運用 本格導入も視野に	山田信博学長 谷口綾子講師(システム情報工学研究科) 田中敏副学長	毎日(7/24) 日経(7/24) 茨城(7/24) 朝日(7/25) 常陽(7/25) 産経(7/28) 東京(7/30) Web(8/1) 読売(8/3)
13	本学が文科省の「2009年度科学技術振興調査費」補助事業に採択 「女性研究者支援モデル育成」、女性研究者の支援拡大 働きやすい環境を整備	山田信博学長	常陽(7/25) 日経(7/28) 産経(8/3)
14	本学で「夏休み自由研究お助け隊」 技術専門職員が指導、中学生ら110人が参加		常陽(7/27)
15	五輪予選兼ね、8/2～8/5本学などを会場に物理チャレンジ		茨城(8/1,8/4)
16	高校生が地理力を競う地理五輪太平洋大会、8/2～8/6本学などを会場に開催	井田仁康教授 (人間総合科学研究科、同五輪実行委員会委員長)	茨城(8/3)
17	第3回3Eフォーラム開催 先端技術生かし、環境都市目指す計画の 具体化について、活発に意見交換		茨城(8/9) 常陽(8/9)
18	本学と常陸太田市内の県立高3校がまちづくりへ連携 8/21に成果発表 課題分析し、改善策	大澤義明教授 (システム情報工学研究科、筑波大・高大連携委員長)	茨城(8/13)
19	本学OBで元日本代表、つくばユナイテッドSUN GAIAの加藤陽一選手や チーム関係者ら、つくば市長を表敬訪問	加藤陽一(バレーボール部OB) 松田裕雄講師(人間総合科学研究科、同監督)	毎日(8/13) 産経(8/13) 常陽(8/13)
20	本学の三谷純准教授らが、鉄琴を自由な形に作るデザインツールを開発 工業製品に活用も	三谷純准教授(システム情報工学研究科)	日刊工業(8/14)
21	第21回国際情報五輪で滝間太基さんが金、副島真さんが銀メダル獲得	滝間太基(附属駒場高3年) 副島真(同)	朝日(8/16) 毎日(8/16) 読売(8/16) 東京(8/16) 日経(8/16)
22	本学のスーパーコンピューターが円周率計算で世界記録樹立 小数点以下2兆5769億8037万7524けた ギネスに登録申請も	計算科学研究センター 佐藤三久教授(同センター長) 高橋大介准教授(同センター)	毎日Web(8/17) 産経Web(8/17) 時事通信(8/17) 毎日(8/18) 読売(8/18) 日経(8/18) 産経(8/18) 東京(8/18) 茨城(8/18) 日経産業(8/18) 日刊工業(8/18) 朝日(8/18) 常陽(8/20) ビジネスアイ(8/21)
23	本学生と中学生が連携し研究、石岡の原風景探る 9月の環境共生学会で発表も	大澤義明教授(システム情報工学研究科) 社会工学専攻学生11人	東京(8/24)
24	世界柔道女子48キロ級の福見友子が金メダル 男子60キロ級の平岡拓晃は銀メダル	福見友子 (人間総合科学研究科体育学専攻2年、了徳寺学園) 平岡拓晃(柔道部OB・了徳寺学園)	朝日(8/27,8/27夕) 読売(8/27) 日経(8/27,8/28夕) 毎日(8/27夕) 東京(8/28) 茨城(8/28) 常陽(8/28)
25	本学生が無料で夏休みの宿題「お助け」 8/31まで	堀内慎高(工学システム学類1年) 忽那一平(医学類6年、サークル質議楽学・代表) 他	朝日(8/29) 茨城(8/29) 常陽(9/2)
26	本学と三菱化学メディエンスが「つくば臨床検査教育・研究センター」設立 を発表 2011年業務開始を目指す	五十嵐徹也(附属病院長) 川上康(附属病院副病院長)	朝日(9/8) 読売(9/8) 日経(9/8) 茨城(9/8) 常陽(9/8) 日刊工業(9/8) 日経産業(9/8) 東京(9/10)
27	総合科学技術会議が世界のトップ級研究者に助成基金 本学関係者から山海嘉之教授、柳沢正史教授が選ばれる	山海嘉之教授(システム情報工学研究科) 柳沢正史教授(客員教授)	日刊工業(9/8) 朝日(9/11) 毎日(9/15)
28	本学発ベンチャーのサンファフューエルズと百姓倶楽部が共同で ヒマワリ油を有効活用する取り組み開始		日経産業(9/9)
29	本学ら6研究機関がつくばで合同シンポ 男女共同参画宣言を発表		常陽(9/10)
30	本学医学群と神栖市が連携 健康づくり教育事業を展開	医学群 大場光信(医学類5年)	常陽(9/13)
31	生活支援ロボ実用化 本学が国際研究拠点	山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	日刊工業(9/16)

イベントカレンダー(10月～12月)

10月

- 1日(木) 開学記念日
- 3日(土) 伊豆海洋自然塾公開講座
- 5日(月) 附属図書館特別展(～30)
- 8日(木) 菅平高原実験センター創設75周年記念式典
- 10日(土) 学園祭(～12)
- 11日(日) ホームカミングデー
- 14日(水) 筑波大学篤志解剖体慰霊式
- 17日(土) 筑波キャンパス電気設備点検(筑波地区停電)(～18)
- 20日(火) 勝井三雄展(～11/1)
- 21日(水) 学長主催 留学生懇談会
- 22日(木) 大学院入試「10月期」(～23,26～27)
合格発表(AC1/オリンピック)
- 24日(土) 秋季スポーツ・デー(～25)



11月

- 2日(月) 出願受付(推薦/帰国(芸))(～5)
- 8日(日) ビジネス科学研究科 法曹専攻入学試験(1次)
- 14日(土) ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻、
人間総合科学研究科 生涯発達科学専攻
入学試験(～15)
- 22日(日) エコシティ第29回つくばマラソン
- 27日(金) 秋季休業(～30)
- 28日(土) ビジネス科学研究科
国際経営プロフェッショナル専攻オープンキャンパス
入学試験(推薦/帰国(芸))(～29)

12月

- 1日(火) 第3学期授業開始
- 4日(金) 大学院学位記授与式
- 6日(日) ビジネス科学研究科 法曹専攻入学試験(2次)
- 7日(月) 合格発表(推薦/帰国(芸))
- 19日(土) 第4回「科学の芽」賞表彰式・発表会
- 23日(水) 第7回全日本大学女子選抜駅伝競走
- 26日(土) 冬季休業(～1/5)



Tsukuba
Communications

vol.5

平成21年10月発行

編集・発行：筑波大学広報室

住 所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電 話：029-853-2063

E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp



「知的コミュニティ基盤研究センター」
(情報メディアユニオン(2001年竣工)内)

2002年10月、図書館情報大学との統合を契機に、高度情報ネットワーク社会における知的コミュニティー基盤の形成にかかる研究を行い、学術研究の進展と研究成果の社会への還元を図ることを目的に設置されました。



Tsukuba
Communications

